

通し番号	4 1 5 5
------	---------

分類番号	17-3B-15-01
------	-------------

(成果情報名) 開花時期が早く、花粉量もあるキウイフルーツの雄品種の選抜
[要約]キウイフルーツ‘ヘイワード’の人工授粉は、雄品種の開花時期の重複により花粉の確保が課題であり、開花期は早く花粉量の多い雄品種を選抜した。本品種の導入により、花粉を早期に十分確保することが可能となり人工授粉の徹底が図れる。
(実施機関・部名)神奈川県農業技術センター 足柄地区事務所根府川分室 連絡先0465-29-0506

[背景・ねらい]

本県のキウイフルーツは、品種‘ヘイワード’が主に栽培されており、貯蔵性のある高品質果実が生産される産地と評価されている。

ヘイワードの大玉果生産のためには、人工授粉が重要な作業であり、活性のある花粉を十分に確保する必要がある。

しかし、ヘイワードの人工授粉の時期は従来雄品種であるトムリと開花時期が重複することがあり、花粉の確保が問題となっていた。

そこで、中国系キウイフルーツを母本として交配した実生個体から開花時期が早く花粉量が多い雄品種の選抜を行った。

[成果の内容・特徴]

1. 1994～1995年に交配し、得られた果実から翌春に種子を採取し播種した。
伸長した実生を平成14年に高接ぎし、開花した花について調査した結果、K1（イエロー紅心×トムリ）の開花時期は、トムリより7日早かった（表1）。
2. 選抜種K1の花糸数はトムリより多い傾向を示した（表1）。
3. K1は、5月21日、トムリは、5月31日に開花直前直後の花を採り、25℃で1昼夜開葯後に花粉を採取して、これを乾燥剤とともに-15℃で保管した。この花粉を10%ショ糖を含む1%の寒天培地にまき、透過型顕微鏡100倍で2視野について発芽率を調査した結果、K1の発芽率は、トムリよりも低いが、実用上十分な値を示した（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 開花期が早いこと、直売向けの中国系キウイフルーツの授粉樹としても活用できる。

[具体的データ]

表1 花の形質 (平成17年5月25日、各品種10花調査)

品 種	開花時期	花弁数	花糸数	花の直径
		枚	本	mm
K 1 ^z	5月18日	5.4	188.0	54.8
K 1 2 ^y	5月25日	5.6	123.0	64.5
トムリ	5月25日	6.0	169.4	56.0

^z K 1 (イエロー紅心×トムリ), ^y K 1 2 (アップル ×トムリ)

表2 花粉の発芽率 (平成18年6月27日調査)

品 種	調査数	発芽数	発芽率
K 1	331	231	74.9%
トムリ	105	95	91.5

[資料名]平成16年度～17年度試験研究成績書(カンキツ・キウイフルーツ)

[研究課題名]胚培養及び交雑育種で育成された系統及び導入品種の選抜
キウイフルーツの選抜育成

[研究期間]平成16年度～17年度

[研究者担当名]浅田真一・真壁敏明・鈴木伸一